

令和3年度

# 事業報告書

令和4年6月

公益財団法人 北海道精神保健推進協会

# 目 次

	ページ
1 管理部門	
(1) 法人の概要	3
(2) 理事会・評議員会等	4
2 事業部門	
1 「精神障害者等」の社会参加への支援	
イ 精神科デイケア事業（こころのリカバリー総合支援センター）	
① 精神科デイケアの実施	
a デイケア事業概況	5
b 令和3年度に在籍した通所者の概要	5
c 年度別通所開始者・終了者数	6
d 年度別通所終了者の理由	6
e 通所希望見学者及び受理面接者数	7
f デイケア年間行事実施状況	7
g 関係団体の支援及び各種行事への参加状況	7
h 地域生活支援事業	7
② O B会活動支援	
a アフターケア（O B会）関連業務	7
③ 家族会活動支援	
a 家族会関連業務	8
ロ 障害者就労支援事業	9
ハ 障害者総合支援法に基づく福祉サービス事業	
(1) 多機能型事業所の運営	
① 就労継続支援B型事業所の運営	
a メンバー構成	9
b 福祉手帳取得状況	10
c 通所者数	10
d 工賃	10
e 活動内容	10
② 就労移行支援事業所の運営	12
③ 就労定着支援事業の運営	13
(2) 相談支援事業所の運営	
① ココクルの運営	13
2 精神障害者の社会参加を支える体制の整備及び啓発普及	
イ 精神保健思想の啓発普及と研修事業	
① 地域精神保健スタッフ等研修事業	
a デイケア・事業所スタッフのための研修・講座	13
② 実習生、見学の受け入れ事業	
a 施設見学等来所者状況	14
b 実習受入状況・教員会議及び訪問による打ち合わせ	14
③ 各種研修会への講師派遣及び企画運営の支援事業	14
④ 市民講座の開催	14
⑤ 障害者のスポーツ振興への協力	14
⑥ 精神障がい者地域移行研修事業の実施 （北海道精神障がい者地域生活支援事業（地域移行研修事業））	
a 地域移行研修会打ち合わせ	15
b センター長会議	15
c ピアサポーター会議	15
d ピアカウンセリングセミナー	16
e 全道ピアサポーター研修	16
f 地域移行研修	17
g オンデマンド研修	17
ロ 高次脳機能障害者支援事業等	
① 相談窓口及びリハビリ提供・地域生活支援事業【在宅生活支援事業】	18
ハ ひきこもり対策推進事業	
① 北海道ひきこもり成年相談センターの運営	
② 札幌市ひきこもり地域支援センターの運営	
a 相談支援実施状況	22
b 支援ネットワークの構築等	27

c	普及啓発、事業概要説明	30
③	研修会	30
3	会計部門	
	貸借対照表	31
	正味財産増減計算書	33
	正味財産増減計算書内訳表	35
	財産目録	37
	財務諸表に対する注記	39
	収支計算書	42
	収支計算書に対する注記	44
4	監査報告	
	監査報告書	45
資料編		
1	理事・監事・顧問・参与・評議員名簿	46
2	財団法人設立の経過等	46
3	施設の概要	47
4	基本財産	47

# 1 管 理 部 門

## (1) 法人の概要

### 【事業内容】

公益財団法人北海道精神保健推進協会は、精神保健思想の啓発普及と精神障害者等(メンタルヘルスケアの諸問題を抱える人を含む。)の社会参加を促進し、精神障害者等の福祉の向上に寄与することを目的として運営しており、定款に掲げる事業は、次のとおりである。

- ・精神保健思想の啓発普及
- ・精神障害者等の社会復帰のための医療施設(デイケア及び診療所)の設置及び運営
- ・障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業
- ・障害者総合支援法に基づく一般相談支援事業・特定相談支援事業
- ・障害者地域生活支援センター等の相談支援事業に対する指導援助
- ・精神障害者等の就労・雇用に向けた支援
- ・地域精神保健・医療・福祉充実のための支援
- ・精神保健医療福祉に関する調査研究
- ・その他本会の目的を達成するために必要な事業

### ○法人の主な事業

精神障害者の社会復帰や社会参加の促進を図ることを目的に、精神科デイケア施設(独立型)である「こころのリカバリー総合支援センター」を運営するとともに、多機能型事業所として、就労継続支援B型事業所「こころカ・プロダクション」、就労移行支援事業所「ここスタ」、就労定着支援事業所を運営している。また、相談支援事業所「ココクル」を設置している。

「リカバリーセンター」では医学的管理のもとに、通所者への個別的相談や指導、社会的自立のための基礎的訓練、生活指導、作業訓練、レクリエーション、体力づくりなどを週間プログラムに沿って実施している。

また、北海道から委託事業として、高次脳機能障害者の受け入れ(平成16年度～)や精神障害者の入院から地域生活への移行支援事業の実施(平成19年度～)、「北海道ひきこもり成年相談センター」の運営(平成21年度～)を行うほか、札幌市からの委託事業として、「札幌市ひきこもり地域支援センター」(平成27年度～)の運営を行っている。

【役員】 理事10名・監事2名・評議員11名

※氏名等資料編(46P)に掲載

【法人職員】(合計20名:常勤職員 12名、非常勤職員 8名)※R4.3.31現在

#### ○「こころのリカバリー総合支援センター」

- ・常勤職員 8名〔所長(医師・理事長)、事務職員1名、精神保健福祉士4名、作業療法士1名、保健師1名、(精神保健福祉士・兼務1名)〕
- ・非常勤職員 2名〔医師1名、事務職員1名〕

#### ○就労継続支援B型事業所「こころカ・プロダクション」

- ・常勤職員 2名〔管理者(精神保健福祉士)、職業指導員(精神保健福祉士)1名、〕
- ・非常勤職員 6名〔生活支援員 1名、目標工賃達成指導員 1名、調理員 4名〕

#### ○就労移行支援事業所「こころカ・プロダクション」

- ・常勤職員 1名〔就労支援員(作業療法士)1名(管理者(精神保健福祉士・兼務))、(生活支援員(精神保健福祉士・兼務))〕
- ・非常勤職員 1名〔職業指導員1名〕

#### ○相談支援事業所「ココクル」

- ・常勤職員 1名〔管理者(精神保健福祉士)、(相談員(精神保健福祉士・兼務))〕

(2) 理事会・評議員会等

区 分	年月日、会場等	議事等の内容
当法人監事による令和2年度決算等監査	令和3年5月21日 於：こころのリハビリー総合支援センター	令和2年度 事業の実施状況、予算執行状況、財産目録等関係帳票の監査 (出席) 監事2名
令和3年度第1回理事会	令和3年5月31日 書面表決	令和2年度 事業報告、決算報告及び令和2年度補正予算等
令和3年度第1回評議員会	令和3年6月16日 書面表決	令和2年度 事業報告、決算報告及び令和2年度補正予算等
令和3年度第2回理事会	令和3年7月16日 書面表決	令和3年度第2回評議員会の招集について
令和3年度第2回評議員会	令和3年7月28日 書面表決	理事の選任について
令和3年度第3回理事会	令和3年10月18日 書面表決	財務規程の一部改正について等
令和3年度第4回理事会	令和4年3月10日 書面表決	令和4年度事業計画、収支予算等
令和3年度第3回評議員会	令和4年3月22日 書面表決	令和4年度事業計画、収支予算

## 2 事業部門

### 1 「精神障害者等」の社会参加への支援

#### イ 精神科デイケア事業（こころのリハビリ総合支援センター）

##### ① 精神科デイケアの実施

##### a デイケア事業概況

	R3					R4								計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
開設日数	21	-	-	21	22	20	21	21	-	-	-	-	250	
月間在籍者数 下段：高次脳再掲	137	140	142	144	145	144	145	142	143	144	143	145		
	9	9	9	9	9	9	9	8	8	8	8	8		
延べ出席者数 (デイケア等)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7,242	
下段：高次脳再掲	25	15	18	20	15	16	28	31	31	23	11	18	251	
通所開始	1	3	3	3	1	1	1	0	2	1	0	2	18	
下段：高次脳再掲	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
通所終了	0	1	1	0	2	0	3	1	0	2	1	1	12	
下段：高次脳再掲	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	
一日平均出席数	29.2	25.3	29.7	33.6	30.4	31.4	31.1	31.9	33.1	24.3	21.3	25.5	29.0	

##### b 令和3年度に在籍した通所者の概要

表. 1-1 通所者の件数

	男	女	計
前年度から継続	97	39	136
当年度に通所開始	14	4	18
計	111	43	154

表. 2-1 通所者の年齢

年齢区分	男	女	計
10～19歳	2	1	3
20～29歳	28	16	44
30～39歳	35	13	48
40～49歳	30	9	39
50歳以上	16	4	20
計	111	43	154
平均年齢	37.4歳	34.4歳	36.6歳

表. 3-1 疾患別状況

	人数	構成
F2 統合失調症	42	27.3%
F3 気分(感情)障害	37	24.0%
F4 神経症性障害	20	13.0%
F6 人格障害	0	0.0%
F7 精神遅滞	4	2.6%
F8 発達障害	33	21.4%
F9 行動および情緒の障害	7	4.5%
G4 てんかん性障害	2	1.3%
G9 神経系のその他の障害	0	0.0%
高次脳機能障害(※)	9	5.8%
計	154	100%

※疾患別状況(高次脳機能障害内訳)

	人数	構成
F04 器質性健忘症候群	7	77.8%
F06 脳損傷、脳機能不全および 身体疾患による他の精神障害	1	11.1%
F07 器質性パーソナリティ行動障害	1	11.1%
計	9	100%

表. 4-1 通所年数

通所年数区分	通所者	終了者	計
1年未満	16	2	18
1年以上～3年未満	34	8	42
3年以上～5年未満	23	0	23
5年以上～10年未満	44	2	46
10年以上	25	0	25
計	142	12	154
平均通所年数	5年11ヶ月	2年8ヶ月	5年8ヶ月
最短通所年数	20日	10ヶ月	
最長通所年数	24年3ヶ月	8年11ヶ月	

表. 5-1 出席状況

通所日数区分	在籍者	終了者	計
50日以下	96	10	106
51日以上～100日以下	23	2	25
101日以上～150日以下	9	0	9
150日以上～200日以下	13	0	13
201日以上	1	0	1
計	142	12	154
平均通所日数	44.2	9.6	41.5

表. 6-1 終了時転帰

転帰区分	男	女	計
就労・就学		1	1
事業所		1	1
在宅	4	1	5
入院	2		2
死亡	1	1	2
その他	1		1
計	8	4	12

## c 年度別通所開始者・終了者

(高次脳機能障害 再掲) (単位:人)

年 度	通所開始者	通所終了者
昭和63年度～令和2年度 高次脳機能障害	925 (46)	783 (39)
令和3年度 高次脳機能障害	18 (0)	12 (1)
計	943 (46)	795 (40)

## d 年度別通所終了者の理由

	年 度	就労・就学	事業所	在宅	中断	入院	死亡	その他	計
総数	昭和63年度～令和2年度 (高次脳機能障害 再掲)	135 (4)	174 (15)	159 (9)	40	227 (6)	9 (2)	39 (3)	783 (32)
	令和3年度 (高次脳機能障害 再掲)	1	1	5 (1)	0	2	2	1	12 (1)
	総計	136 (4)	175 (15)	164 (10)	40	229 (6)	11 (2)	40 (3)	795 (33)

e 通所希望見学者及び体験者数

(単位:人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
見学・体験者数	精神科デイケア	4	3	7	5	0	0	0	8	6	2	2	4	41
	高次脳機能障害	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

f デイケア年間行事実施状況

月	日	行事名	人数(メンバー)
5	1	特別デイケア	11
6	25	イベント行事	44
7	22	特別デイケア	31
8	14	特別デイケア	24
10	1	センター祭	49
11	27	特別デイケア	17
12	24	クリスマスナイトケア	33
12	29	特別デイケア	34
1	15	特別デイケア	13
2	11	特別デイケア	26
3	2	センター内体育大会	21
3	26	特別デイケア	9

g 関係団体の支援及び各種行事への参加状況

月	日	行事名
		なし

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、その他行事は中止となった

h 地域生活支援事業

- ・地域生活支援業務

(単位:回)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
家族訪問及び同行支援	0	1	3	3	0	3	4	7	4	7	6	4	42
関係機関とのケース会議	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	1	0	4
関係機関連携(電話・来所等)	2	2	6	7	6	9	6	2	5	2	1	3	51

- ・個別相談関連業務件数

( )は高次脳再掲 (単位:回)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
メンバー	129 (0)	79 (0)	117 (1)	88 (1)	89 (0)	93 (0)	96 (2)	89 (1)	76 (0)	61 (1)	81 (0)	106 (0)	1104 (6)
OB	3 (0)	11 (0)	7 (0)	3 (1)	5 (0)	3 (0)	6 (0)	0 (0)	3 (0)	1 (2)	3 (2)	4 (0)	49 (5)
家族	2 (3)	1 (2)	5 (1)	12 (1)	6 (1)	6 (2)	5 (2)	1 (4)	4 (1)	5 (1)	2 (3)	6 (3)	55 (24)
一般	0 (2)	0 (8)	1 (3)	0 (0)	1 (0)	1 (2)	0 (6)	0 (6)	2 (3)	1 (5)	0 (7)	2 (6)	8 (48)

② OB会活動支援

a アフターケア (OB会) 関連業務

月	日	曜日	内 容	場 所	参加人数
			元気でやっとなる会(交流会) ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止		
			幹事会 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止		

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、全ての活動を自粛した。

### ③ 家族会活動支援

#### a 家族会関連業務

(単位:人)

月	日	曜日	内 容	出席 人数
4	7	水	発送	3名
4	15	水	休み (リラの会総会中止)	-
5	6	木	発送	3名
5	19	水	休み	-
6	2	水	発送	3名
6	16	水	休み	-
7	7	水	発送	3名
7	21	水	話し合い (日ごろの悩みなど)	11名
8	4	水	発送	3名
8	18	水	休み	-
9	1	水	発送	3名
9	16	水	休み	-
10	6	水	発送	3名
10	20	水	話し合い (日ごろの様子など)	11名
11	4	木	発送	3名
11	17	水	話し合い (当事者の最近の様子など)	11名
12	1	水	発送	3名
12	15	水	話し合い (最近の様子など)	11名
1	5	水	発送	3名
1	19	水	話し合い (新年会は中止にし、自由な話し合いとした)	8名
2	2	水	発送	3名
2	16	水	休み	-
3	2	水	発送	3名
3	16	水	休み	-

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、5回の開催となった。

## ロ 障害者就労支援事業

### ハ 障害者総合支援法に基づく福祉サービス事業

#### (1) 多機能型事業所（就労移行支援事業・就労継続支援B型事業）の運営

##### ① 就労継続支援B型事業所の運営

令和3年度もコロナに翻弄された一年であった。そのなかでも、慣れてきた側面と相変わらず予定の変更を余儀なくされるという側面があった。

慣れてきた面としては、オンラインによる研修や実習、会議などにココプロメンバーが「難なく」対応できていることである。出来ないことを憂うよりも、出来ることに焦点を当て、実行するという、日常行っていることが仕事面に発揮されているという実感があった。予定の変更を余儀なくされるというのは、実習や講義を対面で行う準備を依頼主である養成校と行っている、直前になっての中止やオンラインへの変更が相次いだ。この急な変更にも対応できているココプロのメンバーのプロ意識に触れ、社会の中で仕事をしているということを実感した。

依頼される仕事は、増えている。講義講演、撮影等の実績も確実に増えてきており、自他ともにその質の高さには、誇りを持っている。

そのなかでも、自主企画の活動も展開できたことが、大きな実績の一つともいえる。一昨年度から継続しているものとして、実習生と行っているDST（デジタルストーリーテリング）が挙げられる。もう一つは、にんげん図書館（リビングライブラリーの手法を活用した啓発活動）を砂川市で実施した。これまで重視してきたナラティブの実践であり、ナラティブベースのこれらの動きは、事業所活動の中核になりつつある。

#### a メンバー構成（令和4年3月31日現在）

○登録者： 13名（定員14名）

○性別： 男性10名、女性3名

○年齢： 平均年齢39.7歳（最低22歳、最高56歳）

○障害状況：

疾患名	人数
身体障害	1
知的障害	3
精神障害	10
計	14

※（1名重複）

## b 福祉手帳取得状況

手帳等級	人数
身体障害者福祉手帳 1 級	1
療育手帳 B	1
療育手帳 B ー	2
精神保健福祉手帳 2 級	6
精神保健福祉手帳 3 級	2
なし	2
計	14

※ (1 名重複取得)

## c 通所者数

### 通所状況

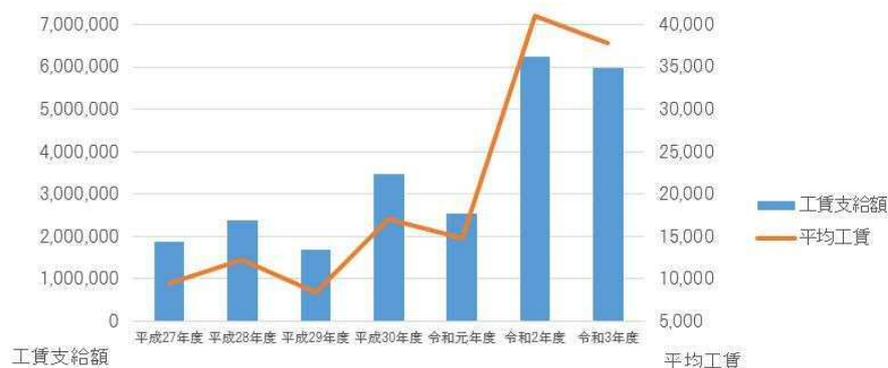
令和 3 年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
登録人数	14	14	15	15	15	15	15	15	16	14	14	15	14.8
平均通所者数/日	12.1	12.4	12.7	12.3	12.1	12.5	12.0	11.3	11.2	12.0	10.8	11.0	11.9

## d 工賃

### ○支給額

工賃支給額	5,982,958 円
平均工賃月額	37,855 円

### ○工賃支給実績の推移



## e 活動内容

### ○行政との協働 (委託事業など) の実績

市町村名	内容
北海道	心の健康に関する相談窓口開設について CM 映像を制作した

○他の NPO・市民活動団体との協働の実績

区分	件数	内容
活動報告	1 件	特色ある活動をしている福祉事業所としてシンポジスト参加した
防災に関する研修	2 件	災害時用配慮者避難に関する研修会を企画運営したほか、防災に関するヒアリング調査を行った
商品販売	1 件	当事業所で制作した商品を北広島福祉ショップふゆーで通年販売した
デザイン制作	2 件	赤い羽根共同募金ピンバッジのデザイン制作やアート展へ作品を出展した
ホームページ管理	1 件	ソーシャルワーク分野におけるレジリエンスに関する研究情報の WEB ページの管理業務を行った

○講義実績

区分	依頼先
精神保健福祉学科等	4 大学 2 専門学校
作業療法学科	2 大学 2 専門学校
看護学科	5 大学
その他	3 団体 1 中学校

コロナ禍より対面での精神保健福祉に関する講義が制約されるため、リモートで講義を行うなど対応しながら実施した。また、援助実習の依頼を希望する養成校には、学生に講義をする機会を設けてもらい、学生の事業所及び当事者理解が深まるようにしている。

○撮影・映像制作（依頼による）

区分	件数	内容
撮影・映像制作	13 件	水道凍結防止のための水抜き説明映像、学習教材映像、研修会記録映像などを制作した
オンライン配信	10 件	オンライン配信にて研修会を実施した

コロナ対策のために研修教材の制作依頼に加えて、研修会のオンライン配信業務の依頼を受け、オンライン配信研修会の件数が増えている。また、民間企業からも映像制作の依頼を受けている。

○撮影・映像制作（自主企画による）

作品名	摘要
当事者がきく 北海道にゆかりのあるパイオニアの声 Vol.7 中村喜人氏	DVD 販売
ここプロありのままラジオ ～ファンキーで行こう！	ラジオ CM 制作

## ○ラジオ放送

放送局／周波数	番組	回数	摘要
エフエムアップル 76.5MHz	「ここプロありのままラジオ ～ファンキーで行こう！」 毎週火曜日 14:30～15:00 放送	52回	R元年5月より放送

## ○イベント企画

きらりの集い2022 in北海道 ～みんなと一緒に、出会いたいっしょ～ 2022年1月8日・9日（オンライン開催）
--

全国の精神障害を持っている当事者等が交流を深めるイベントであるきらりの集い北海道大会を企画実施した。

## ○実践報告・調査研究

第29回 日本精神障害者リハビリテーション学会にて報告 「障害者メディア事業所における大学等での講義を7年間継続して見えたこと」 ～語りの変化・心境の変化を通じて～
--

## ○勉強会の開催

7回	内容：SDGs、リビングライブラリー、メディアリテラシー、 カラーコーディネート、栄養、歯科衛生 等
----	---

外部講師を招いて事業所メンバー・職員向けの勉強会を行った。勉強会での学びは事業所の活動に活かされており、リビングライブラリーの勉強会で得た学びはにんげん図書館（リビングライブラリー）の実施につながっている。

## ② 就労移行支援事業所の運営

令和3年度については、2名が就職し、その後のフォローを継続している。もう一名は、2年間の利用期限を昨年度末に終え、就労継続支援A型事業所への就労、今後就職後6か月を経て「就労定着支援事業所」の対象となる利用者がいるため継続した支援を行いながら利用等の手続き等行っていく。

## ○利用者内訳（定員6名）

令和3年度利用者実数：3名

## ○終了者の転帰

単位：人

内容	人数	備考
一般企業への就職	1	継続就業中
就労継続等への移行	1	A型事業所
中断	1	

## ○就職先種別（開設以降）

単位：人

業種	建築業事務	車両販売	調理・給食	行政機関	通信業事務	リサイクル業	他
	1	1	2	1	1	1	1

## ③就労定着支援事業の運営

令和4年4月30日現在、継続して就労している利用者1名が登録している。利用対象者となりうる就労者は他にもいるが現状ではメールや電話での支援で対応している。また、継続していた方も退職することがあり、今後の支援の仕方も検討の余地が残されている。今後必要に応じて就労定着支援への登録を勧め、継続して働くことが出来るように支援していく。必要に応じて支援していくことを継続する。

## (2) 相談支援事業所の運営

## ① ココクルの運営

当法人では「精神障害者等の社会参加の促進」を目的としており、これまでデイケア通所者や家族等からの相談に応じているところである。障害者総合支援法に基づき、①就労支援事業やグループホーム等の障害福祉サービスの利用促進を図るため、②ここりか・プロダクションやその他障害福祉サービスの利用更新（概ね1年毎）のため、平成28年に相談支援事業所を開設し医療から福祉へ繋がる支援を行っている。令和3年度の実績としては下記のとおりとなっている。

## ○相談実績（件数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
新規	0	0	1	1	0	0	1	1	2	0	0	2	8
電話・メール相談	11	13	15	13	10	12	11	15	18	15	10	18	161
面接相談	9	11	14	16	12	13	9	12	11	10	8	12	137
訪問・同行支援	8	10	13	14	11	12	10	14	12	11	7	13	135
関係機関との連絡	12	14	15	17	11	13	12	13	15	14	11	12	159

## 2 精神障害者の社会参加を支える体制の整備及び啓発普及

## イ 精神保健思想の啓発普及と研修事業

## ① 地域精神保健スタッフ等研修事業

## a デイケア・事業所スタッフのための研修・講座

コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止した。

② 実習生、見学の受け入れ事業

a 施設見学等来所者状況

月	日	曜日	内容	人数
6	8	火	B型事業所職員	2
8	24	火	家庭生活カウンセリングセンター受講者	11
8	27	金	B型事業所職員	2
10	29	金	北星学園大学ゼミ学生	11
12	5	月	メディア関係者	1
12	27	月	福祉系事業所職員	1
a 施設見学等来所者状況				28

b 実習生受入状況・教員会議及び訪問による打ち合わせ

内容	人数
福祉系学科(北海道医療大・札幌学院大・星槎道都大・北星学園大・北翔大・心療福祉)	11
作業療法学科(札幌医科大学・リハビリテーション大学校)	2
看護学科(北海道医療大学・札幌医科大学院生)	29
医学部(北海道大学)	4
計	46
実習事前訪問対応	7回
実習指導者会議等出席(オンライン会議も含む)	6回

③ 各種研修会への講師派遣及び企画運営の支援事業

社会福祉団体など関係機関の要請に基づき、研修会への講師派遣や企画運営等への協力・技術支援を行っている。

④ 市民講座の開催

コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止した。

⑤ 障害者のスポーツ振興への協力

精神障害者のスポーツ振興の意味も含め、精神障害者団体への体育館貸出などへの協力を検討中である。

⑥精神障がい者地域移行研修事業の実施

(北海道精神障がい者地域生活支援事業(地域移行研修事業))

コロナ禍2年目の研修準備として、オンラインを軸とした早めの対策をとった。研修企画についても、いくつかの圏域が協働で実施することも行い、オンデマンドによる研修も試行した。オンデマンドの利点も多く、各圏域で医療機関からの参加が増加した。ピアサポーター研修についても、多くのピアサポーターが、企画の段階から参加し、道外のピアサポーターとの交流も実現した。

### a 地域移行研修会打ち合わせ

オンラインにより第一回センター長会議にて実施。その他、研修の実施時期に合わせてそれぞれ2回から3回オンラインにて実施

### b センター長会議

日 時	会 場 (圏域)	内 容
5月13日 10:00~11:30	第一回センター長 (zoom)	道内各センター長と情報交換、意見交換 (今年度研修計画、各圏域の近況報告など)
7月28日 10:00~11:00	第二回センター長会議 (zoom)	道内各センター長と情報交換、意見交換 (全道ピア研修、オンデマンド研修のことなど確認)
9月30日 10:00~11:00	第三回センター長会議 (zoom)	道内各センター長と情報交換、意見交換 (全道ピア研修、看護職向け研修など)
12月16日 10:00~11:00	第四回センター長会議 (zoom)	道内各センター長と情報交換、意見交換 (各圏域の近況報告など)
2月9日 11:00~12:00	第五回センター長会議 (zoom)	道内各センター長と情報交換、意見交換 (室蘭のセンター長から調査の報告など)

### c ピアサポーター会議 (zoom)

日 時	参加者	内 容
7月30日 10:00~	46名	各センターのピアサポーター自己紹介、情報交換
8月12日 10:00~	38名	情報交換と各センターからの近況報告
9月15日 10:00~	42名	情報交換と各センターからの近況報告
12月30日 10:00~	14センター	情報交換と各センターからの近況報告
8月19日 13:30~14:30	41名	情報交換と各センターからの近況報告
9月16日 13:30~14:30	36名	『こころかるた』を使ってグループワーク
11月18日 11:00~	40名	気分調べ+全道ピア研修の振り返り
12月16日 13:30~14:30	42名	今年一年を振り返り、「今年を漢字1文字で表すと」というテーマで
1月20日 13:30~14:30	38名	「今年挑戦したいこと」「ピア会議でしたいこと」というテーマで、グループワークを行う。
2月24日 13:30~14:30	35名	「ピアサポーターを辞めたいと思ったことはありませんか?」というテーマで、グループを実施
3月17日 13:30~14:30	34名	「次年度ピア研修について」「ピアサポーター辞めたい時の対処法」など

d ピアカウンセリングセミナー（zoom）

11月11日

10:00～11:00	<p>&lt;ピアカウンセリングオリエンテーション&gt;                  アイスブレイク（気分をほぐすためのウォーミングアップ）                  ご当地自慢を聞かせてください                  ピアカウンセリングとは何でしょう？                  ☆ ピアカウンセリングの基本原則                  ☆ ピアカウンセリングのねらい                  ピアカウンセリングの進め方                  気分調べ                  ☆ 気分調べの説明（目的とルール）                  ☆ 気分調べでチェックイン                  休憩</p>
11:00～12:00	「自己開示について」
	昼休み
13:00～14:00	気分調べでチェックイン 演習1 「エンジン始動のための他己紹介」 休憩
14:00～15:00	演習2 「ストレングス」 チェックアウトとしての感想

11月12日

10:00～11:00	気分調べでチェックイン 「レジリエンス（中村先生による講義）」動画視聴 質問・感想 休憩
11:00～12:00	演習3 「人生の曲線」
	昼休み
13:00～15:00	最後の演習 「得意の一步」 研修の分かち合い 修了式

※全課程修了者には参加証を発行。

e 全道ピアサポーター研修

例年の3日間研修を実施。コロナ感染拡大のために、全面オンラインで実施。オンラインの実施にあたっては、全道のピアサポーターから実行委員を募り、3回ほどの打ち合わせを行い、内容や進め方の検討を行った。そのことにより、「主体的に」参画・参加する体制が出来つつある。オンラインによる打ち合わせのために、札幌近辺の限られた地域からの実行委員ではなく、遠方の地域からの参加も可能になったことが特徴と言える。

講師も、北海道内だけではなく、道外から招くことが出来、研修の幅が広がったと考えられる。

オンラインでの3日間実施は、ピアサポーターの疲労などを考慮し、オンデマンドも組み合わせ、一定時期までに動画を視聴し、リアクションペーパーの提出をもって、「参加」と認定する方式をとった。オンラインでは一方的な講義というよりは、演習やグループに分けての意見交換ができるように工夫した。

プログラム

	1日目 (10/20)	2日目 (オンデマンド)	3日目 (10/22)	
10:00	開会のあいさつ 阿部理事長  アイスブレイク 「私のイチオシ!!」	①「オープンダイアログとは？」 講師：阿部理事長	企画② 「私のリカバリーを語り合おう!!」	10:30～
12:00～ 13:00	昼休み	講師：矢部滋也氏 (多機能型事業所PEER+design 管理者)	昼休み	
15:00	企画① 「和歌山のピアサポーターとの 活動報告・交流会」	講師：丸子慎平氏 (ここリカ・プロダクション ピアスタッフ)	企画③ 「元気になる質問を使おう！ ～ミラクルカードで 自分を知ってみよう～」 講師：関西医科大学付属病院 デイケア 村上MHSW	
		③「レジリエンスについて」 中村和彦教授 (北星学園大学) <small>(※「レジリエンスについて」の動画は 後日改めてURLをお送りします)</small>	ファシリテーター：全道ピアの方々等  開会のあいさつ	～15:30

#### f 地域移行研修（エリアをまたぐ研修としても企画）

日時	会場	参加者	内容
7月20日(火) 13:30～	倶知安町福祉文化ホール (倶知安町)	後志圏域 46名 他圏域 後日編集したものを希望した圏域に視聴してもらった	Zoom 配信
3月3日(木) 10:00～16:30	【旭川会場】旭川市障害者福祉センターおびつた会議室1 zoomによるオンライン参加の併用	50名 他圏域から視聴したいという希望が挙がり、当日の様子を次年度編集し、オンデマンド研修に充てる予定	

#### g オンデマンド研修

コロナの影響で、一か所に集まることが可能な時と不可能な時があるために、それぞれの圏域の状況に合わせて活用できるように導入した

○門屋充郎氏 (NPO 法人十勝障がい者総合支援センター理事長) 『「地域移行」の今日的意義』

○中島裕子氏 (札幌鈴木病院看護師長) 「長期入院者の退院のための看護」

○中村和彦氏（北星学園大学副学長）「リジリエンスについて」

□ 高次脳機能障害者支援事業等

① 相談窓口及びリハビリ提供・地域生活支援事業【在宅生活支援事業】

1. 支援プログラムの実施状況及び相談件数

○リハビリテーションプログラム実施状況（※通所登録者数は各月末時点）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
通所登録者（人）	9	9	9	9	9	9	8	8	8	8	8	8	
実施回数（回）	21	19	22	21	22	20	21	21	21	20	19	23	250
延べ人数（人）	25	15	18	20	15	16	28	31	31	23	11	18	251
1日平均通所者（人）	1.2	0.8	0.8	1.0	0.7	0.8	1.3	1.5	1.5	1.2	0.6	0.8	

・終了者：1名

① A氏 40代 男性 くも膜下出血による高次脳機能障害 終了理由：事業所通所安定のため

〈登録者の動向〉

コロナウイルスの流行により、持病があるため通所を中断する方、高齢のため外出は自粛するという方がいた。他事業所を併用利用している方も数名いる。

【プログラムの内容】

AM：全通所者による話し合いで構成される文化系活動

（カラオケ、カードゲーム、茶話会等）

全通所者による話し合いで構成されるスポーツ活動

（バドミントン、バレー、卓球等）

小グループ（クローズグループ）による話し合いで構成される活動

（料理、話し合い、外出等）

軽スポーツ エクササイズやヨガ等のゆるやかな運動

治療系プログラム

（心理教育、WRAP、自分のトリセツ作り、アンガーマネジメント等）

PM：全通所者による話し合いで構成される文化系活動

（カラオケ、カードゲーム、茶話会等）

全通所者による話し合いで構成されるスポーツ活動

（バドミントン、バレー、卓球等）

行事の企画運営グループ等

クラブ活動（陶芸、絵画、英会話、茶道、スポーツ、卓上ゲーム、麻雀等）

行事への参加：センター祭 等

※通所日数は、他機関との併用、体力や精神的疲労の度合いなど個々の状況に合わせて決定している。その中で複数あるプログラムから自分に適したプログラムを選択し参加する。（必要に応じスタッフがプログラム選択の助言を行う）

## ○相談支援件数と内容

	計
電話（家族・本人）	96
電話（関係機関）	48
来所相談	42
訪問・同行	23
文書・メール	87
見学（家族・本人）	1
見学（関係機関）	0
計	297

### 【相談内容】

- ・本人～対人関係や生活上の悩みや不安、就労等への準備、日常生活における計画や手順の工夫など
- ・家族～関わりの苦勞、工夫を聴くほか、本人と他の家族との意思疎通や目標確認
- ・医療機関（脳神経外科・リハ科・精神科病院、クリニック）～退院後の支援、リハビリテーションについて
- ・行政機関、就労支援・介護支援・相談支援事業所～受け入れ先について、対応困難なケースについて

## ○同行支援・家庭訪問と内容

- ・家庭での生活状況の確認や家事等の本人の自立に向けた助言、指導を行った。

## ○精神科医による診察

- ・外来診察 【58件】

近年はデイケア利用者だけではなく、定期的な診察や生活支援のために利用する方も増えている。手帳の申請や、裁判に係る意見書を作成。

## 2. 支援計画の作成と評価

### ○新規支援計画の作成

医師の診断とコメディカルによる認知機能、ADL 評価を行い、今後必要とされる地域資源やリハビリプログラムの検討を行った。

### ○本人・家族の目標設定と振り返り

	実施内容
4月	座談会（グループの中でのリハビリの振り返りとフィードバック）
4月	定期面接（本人・家族同席での振り返りと目標設定）
10月	座談会（グループの中でのリハビリの振り返りとフィードバック）
10～11月	定期面接（本人・家族同席での振り返りと目標設定）

## 3. 支援調整・検討会議の開催

### ○施設内支援検討会議

	回数	実施内容
4月	2	支援計画の評価検討、対応の検討
5月	1	対応の検討
6月	-	
7月	1	対応の検討
8月	1	対応の検討
9月	2	対応の検討
10月	3	対応の検討、支援計画の評価検討
11月	2	対応の検討

	回数	実施内容
12月	-	
1月	1	対応の検討
2月	2	対応の検討
3月	1	ケース検討

### ○他機関との支援調整会議

実施日	参加機関	内容
5月21日	本人、子、学校職員3名、当職員	子の転校に際して、本人の障害について説明
8月25日	本人、病院心理士、当職員	支援の分担調整、情報共有
8月31日	GH管理者・世話人、病院ワーカー、当相談室職員、当事業所管理者、本人、父	GH入居のための情報共有、説明など
3月3日	本人、相談室、ヘルパー事業所、医師 当職員2名	本人の障がい特性の共有確認及び今後の支援について

### ○その他他機関との連携

実施日	参加機関	内容
6月1日	本人、市役所職員、当職員	転居にあたっての生活保護の手続き同行
6月30日	本人、相談室職員、当職員	相談室契約同席
7月27日	病院ワーカー、GH管理者、当事業所管理者・スタッフ、本人、父	GH利用に向けての見学同行
8月3日	本人、父、病院ワーカー、GH管理者、当事業所管理者・スタッフ	GH利用に向けての見学同行
8月5日	本人、市役所職員、相談室職員、当職員	福祉サービス利用に向けた区分認定の聞き取り調査同席
9月1日	本人、区役所担当職員、当事業所管理者	福祉サービス区分認定の面接同席
1月27日	本人、A型事業所職員、当職員	A型事業所見学同行

### 4. 関係機関相互の情報交換及び参加研修会等

実施日	実施内容	主催
6月23日	令和3年度 第1回高次脳機能障害支援普及全国連絡協議会	国立障害者リハビリテーションセンター
6月23日	令和3年度 第1回支援コーディネーター全国会議	国立障害者リハビリテーションセンター
6月24日	高次脳機能障害者 リハビリテーション講習会実行委員会①	講習会実行委員会
7月14日	高次脳機能障害者 リハビリテーション講習会実行委員会②	講習会実行委員会
7月28日	高次脳機能障がい者支援事業委託事業者打ち合わせ会議	北海道保健福祉部福祉局 障がい者保健福祉課
8月11日	高次脳機能障害者 リハビリテーション講習会実行委員会③	講習会実行委員会
10月6日	高次脳機能障害者 リハビリテーション講習会実行委員会④	講習会実行委員会
10月17日	北海道 高次脳機能障害者 リハビリテーション講習会	講習会実行委員会
11月10日	高次脳機能障害者 リハビリテーション講習会実行委員会⑤	講習会実行委員会
12月15日	令和3年度高次脳機能障がい者支援連絡会議	北海道保健福祉部福祉局 障がい者保健福祉課
2月25日	令和3年度 第2回高次脳機能障害支援普及全国連絡協議会	国立障害者リハビリテーションセンター
2月25日	令和3年度 第2回支援コーディネーター全国会議	国立障害者リハビリテーションセンター

## 5. 支援ネットワークの構築

ホームページやパンフレット、研修会等で当施設を知った関係機関からの支援法や情報を求める連絡を受け、これまで確立したネットワークをもとに情報の伝達を行った。また、ケースを通じて就労継続事業所や保健師、介護支援専門員、訪問リハスタッフなどで支援目標の確認を共同して行うことや研修会の企画を共同して行うことで、お互いに相談でき対応の調整がしやすくなった。

## 6. 講演・講師派遣

### ○ 高次脳機能障害リハビリテーション講習会について

北海道高次脳機能障害リハビリテーション講習会の実行委員会事務局として運営。

日時：10月17日（日） 13:00～15:00（オンライン開催）

テーマ：“新解釈”不自由な脳の解き明かし～当事者の視点から伝えたいこと～

#### 第1部 講演「“新解釈”不自由な脳の解き明かし」

講師：中央大学・日本高次脳機能障害友の会顧問・公認心理士・臨床心理士

山口 加代子 氏

#### 第2部 対談

講師：山口加代子氏

ルポライター 鈴木大介氏

#### 第3部 Q&A コーナー

参加者：オンライン申込件数 319 名（当事者、家族、医療・福祉関係者 等）

### ○ 普及啓発

#### ・ 大学への講師派遣

対象：医療福祉系養成校学生

講師：当法人 多機能型事業所ここりか・プロダクション 当事者 2 名

内容：当事者の体験談発表、質疑応答

実施回数：8 回

#### ・ 当事業所ラジオ番組出演

対象：ラジオ視聴者（一般市民）

出演：当事業所管理者、当事者

内容：当事者の生活のこと、高次脳機能障害のことなどを語る

ハ ひきこもり対策推進事業

- ① 北海道ひきこもり成年相談センターの運営
- ② 札幌市ひきこもり地域支援センターの運営

a 相談支援実施状況

1. 相談支援概要

○相談件数（北海道） (単位：件)

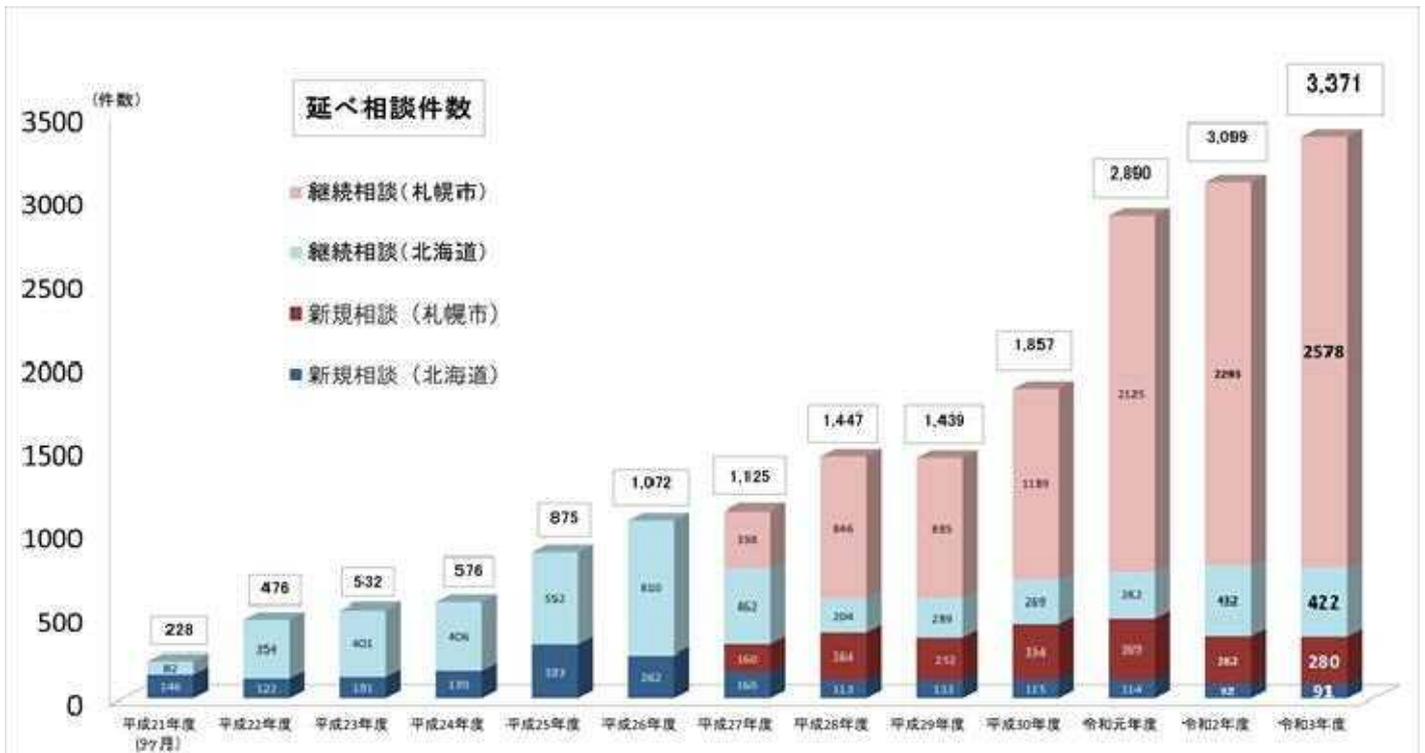
相談件数計	513
新規相談	91
継続相談	422

○相談件数（札幌市）

相談件数計	2,858
新規相談	280
継続相談	2,578

○相談件数（合計）

相談件数計	3,371
新規相談	371
継続相談	3,000



## 2. 相談方法別内訳

### ○相談方法内訳（北海道）

	新規	継続	計	構成比
電話	65	77	142	26.2%
来所	2	61	63	11.4%
メール	22	281	303	55.8%
アウトリーチ	2	3	5	0.9%
<b>小計</b>	<b>91</b>	<b>422</b>	<b>513</b>	-
連携	-	30	30	5.5%
ケア会議	-	-	-	-
<b>小計</b>	-	30	30	-
<b>計</b>	<b>91</b>	<b>452</b>	<b>543</b>	<b>100%</b>

### ○相談方法内訳（札幌市）

	新規	継続	計	構成比
電話	198	284	482	15.5%
来所	20	1010	1030	33.1%
メール	47	996	1043	33.5%
アウトリーチ	4	264	268	8.6%
出張相談等	11	24	35	1.1%
<b>小計</b>	<b>280</b>	<b>2,578</b>	<b>2,858</b>	
連携	-	258	258	8.3%
ケア会議	-	-	-	-
<b>計</b>	<b>280</b>	<b>2,836</b>	<b>3,116</b>	<b>100%</b>

### ○相談方法内訳（合計）

	新規	継続	計	構成比
電話	263	361	624	17.1%
来所	22	1071	1093	29.9%
メール	69	1277	1346	36.8%
アウトリーチ	6	267	273	7.5%
出張相談等	11	24	35	1.0%
<b>小計</b>	<b>371</b>	<b>3000</b>	<b>3371</b>	<b>92.1%</b>
連携	-	288	288	7.9%
ケア会議	-	-	-	-
<b>計</b>	<b>371</b>	<b>3288</b>	<b>3659</b>	<b>100%</b>

## 3. 相談時間

### ○相談時間（北海道）

	0～ 15分未満	15～ 30分未満	30～ 60分未満	60分以上	合計	延べ相談 時間 (時：分)	平均 所要時間
電話	23	52	56	11	142	67:00	28分
来所		3	29	31	63	58:10	55分
メール	204	67	31	1	303	72:30	14分
アウトリーチ			1	4	5	6:25	1時間17分
連携	15	10	4	1	30	8:45	18分
ケア会議	-	-	-	-	-	-	-
<b>計</b>	<b>242</b>	<b>132</b>	<b>121</b>	<b>48</b>	<b>543</b>	<b>212:50</b>	<b>24分</b>

○相談時間（札幌市）

	0～ 15分未満	15～ 30分未満	30～ 60分未満	60分以上	合計	延べ相談 時間 (時：分)	平均 所要時間
電話	149	198	117	18	482	176:29	22分
来所	64	141	379	446	1030	832:30	49分
メール	797	181	58	7	1043	223:25	13分
アウトリーチ		5	41	222	268	355:55	1時間20分
出張相談等		1	1	33	35	38:50	1時間7分
連携	155	58	18	27	258	79:10	18分
計	1,165	584	614	753	3,116	1706:19	33分

○相談時間（合計）

	0～ 15分未満	15～ 30分未満	30～ 60分未満	60分以上	合計	延べ相談 時間 (時：分)	平均 所要時間
電話	172	250	173	29	624	243:29	25分
来所	64	144	408	477	1093	890:40	52分
メール	1001	248	89	8	1346	295:55	14分
アウトリーチ	0	5	42	226	273	362:20	1時間19分
出張相談等	0	1	1	33	35	38:50	1時間7分
連携	170	68	22	28	288	87:55	18分
計	1,407	716	735	801	3659	1919:09	29分

4. 相談者内訳

○相談者内訳（北海道）

	件数	構成比
本人	27	29.7%
父	10	11.0%
母	19	20.9%
両親	4	4.4%
兄弟姉妹等	18	19.8%
その他	13	14.3%
計	91	100%

○相談者内訳（札幌市）

	件数	構成比
本人	63	22.5%
父	20	7.1%
母	111	39.6%
両親	4	1.4%
兄弟姉妹等	58	20.7%
その他	24	8.6%
計	280	100.0%

○相談者内訳（合計）

	件数	構成比
本人	90	24.3%
父	30	8.1%
母	130	35.0%
両親	8	2.2%
兄弟姉妹等	76	20.5%
その他	37	10.0%
計	371	100%

5. 当事者の年齢

○当事者の年齢（北海道）

	男	女	不明	計	構成比
10歳未満				0	0.0%
10歳以上～15歳未満		2		2	2.2%
15歳以上～20歳未満	5	2	1	8	8.8%
20歳以上～30歳未満	12	7		19	20.9%
30歳以上～40歳未満	15	6		21	23.1%
40歳以上～50歳未満	12	7		19	20.9%
50歳以上～60歳未満	8	4		12	13.2%
60歳以上	1			1	1.1%
不明	5	1	3	9	9.9%
計	58	29	4	91	100%

○当事者の年齢（札幌市）

	男	女	不明	計	構成比
10歳未満					0.0%
10歳以上～15歳未満	5	8	1	14	5.0%
15歳以上～20歳未満	26	19		45	16.1%
20歳以上～30歳未満	54	21		75	26.8%
30歳以上～40歳未満	35	11	1	47	16.8%
40歳以上～50歳未満	40	6		46	16.4%
50歳以上～60歳未満	14	11		25	8.9%
60歳以上	3	3		6	2.1%
不明	13	7	2	22	7.9%
計	190	86	4	280	100.0%

○当事者の年齢（合計）

	男	女	不明	計	構成比
10歳未満	0	0	0	0	0.0%
10歳以上～15歳未満	5	10	1	16	4.3%
15歳以上～20歳未満	31	21	1	53	14.3%
20歳以上～30歳未満	66	28	0	94	25.3%
30歳以上～40歳未満	50	17	1	68	18.3%
40歳以上～50歳未満	52	13	0	65	17.5%
50歳以上～60歳未満	22	15	0	37	10.0%
60歳以上	4	3	0	7	1.9%
不明	18	8	5	31	8.4%
計	248	115	8	371	100%

## 6. 当事者の居住地

(北海道)

圏域	
石狩	23
胆振	11
道内	9
道外	7
空知	7
十勝	7
後志	6
オホーツク	6
上川	6
渡島	2
釧路	2
留萌	2
宗谷	1
檜山	1
日高	1
根室	0
計	91

(札幌市)

本人居住地	件数	構成比
札幌市内	47	16.8%
白石区	26	9.3%
豊平区	34	12.1%
厚別区	24	8.6%
手稲区	21	7.5%
清田区	10	3.6%
中央区	21	7.5%
東区	34	12.1%
西区	18	6.4%
南区	15	5.4%
北区	30	10.7%
計	280	100%

## 7. 連携状況

	北海道	札幌市
他機関への繋ぎ	23	159
他機関からの繋ぎ	9	99
小計	32	258
主な機関	保健所 市町村 若者サポートステーション 医療機関（精神科）等	各区福祉課・保護課 医療機関（精神科） 不動産会社 民間企業 医療機関（他科） 若者サポートステーション 等

## 8. ひきこもり相談から当法人の精神科デイケアを活用したケース

### ○精神科デイケアへの通所（北海道）

	人数
令和3年度	0名
平成21～令和2年度	38名
計	38名

### ○精神科デイケアへの通所（札幌市）

	人数
令和3年度	8名
平成27年度～令和2年度	24名
計	32名

### ○精神科デイケアへの通所（合計）

	人数
令和3年度	8名
平成27年度～令和2年度	62名
計	70名

○ひきこもり外来状況（北海道）

年 度	平成21年-令和2年度	令和3年度	計
延べ回数	362回	33回	395回
新規ケース	65名	2名	67名

○ひきこもり外来状況（札幌市）

年 度	平成27-令和2年度	令和3年度	計
延べ回数	1,129回	621回	1,750回
新規ケース	88名	28名	116名

○ひきこもり外来状況（合計）

年 度	平成27-令和2年度	令和3年度	計
延べ回数	1,491回	476回	2,145回
新規ケース	153名	30名	183名

b 支援ネットワークの構築等

1. ひきこもり支援者連絡会議実施状況（北海道）

当年度も、「ひきこもり相談会・研修会」として、各保健所および市町村に希望確認をし、希望のあった地域と連絡調整をし、相談会等を実施した。新型コロナウイルス感染拡大防止をふまえオンライン研修を多く実施した。希望確認の項目と実施状況は以下のとおり。

希望確認項目、①関わっている機関の職員が集まったのケース検討会

②個別相談（当事者、家族） ③ひきこもりに関する研修会 ④その他

月	日	実 施 内 容	備 考
10	7	壮瞥町（室蘭保健所） ひきこもり個別相談	オンライン
10	14	ひだか町（静内保健所） ケース検討	電話
10	18	幕別町 ひきこもり個別相談	オンライン
10	22	北見市（北見保健所） ひきこもり研修会	研修会講師※オンライン
11	16	妹背牛町（深川保健所） ケース検討	オンライン
11	10	壮瞥町（室蘭保健所） 個別相談	オンライン
11	11	南幌町（岩見沢保健所） ケース検討・個別相談	アウトリーチ
12	2	北広島市（千歳保健所） ケース検討	オンライン
12	15	和寒町（名寄保健所） ひきこもり研修会	研修会講師※オンライン
12	20	石狩市 ひきこもり研修会 （石狩市子ども・若者支援協議会）	研修会講師
1	13	帯広市（帯広保健所） ひきこもり研修会	研修会講師
1	18	名寄市（名寄保健所） ひきこもり研修会	研修会講師※オンライン
1	19	赤井川村（倶知安保健所） ひきこもり研修会	研修会講師
1	21	壮瞥町（室蘭保健所） 個別相談	オンライン
3		士幌町（帯広保健所） ひきこもり研修会	研修会講師 ※中止→研修会動画を配布

## 2 ひきこもり出張無料相談会・よりどころ実施状況（札幌市）

### ○ひきこもり出張無料相談会実施状況

当センターの通常相談の開設日は平日の日中である。相談者によっては、平日の日中は「仕事があり相談ができない」等、多様なニーズが考えられる。そのため、「ひきこもり出張無料相談会」は各月4回程度（平日水曜日2回、土曜日・日曜日1回ずつ）13:30～16:00に実施した（1回あたり最大4件まで予約可）。

「ひきこもり出張無料相談会」の実施にあたっては、当センターのホームページ、新聞掲載、広報さっぽろ（誌面、地デジ、アプリ）、10区役所・10区民センターおよび他関係機関へのチラシ配布等で周知を行った。特に、広報誌（配布）への掲載は市民からの反響が大きかった。各回、申込状況に合わせて、相談員を調整した。開催日、件数は以下の通りである。

※新型コロナウイルスの影響により会場が借りらず9月まで中止し、10月から再開している。

○北海道新聞「さっぽろ10区」に掲載し周知宣伝した。2021年6月～2022年2月

5月		
日程	場所	相談件数
5月9日(水)	手稲区民センター⇒中止	-
5月22日(土)	札幌市ひきこもり地域支援センター⇒中止	-
5月26日(水)	中央区民センター⇒中止	-
5月30日(日)	東区民センター⇒中止	-

6月		
日程	場所	相談件数
6月9日(水)	南区民センター⇒中止	-
6月12日(土)	白石区民センター⇒中止	-
6月20日(日)	豊平区民センター⇒中止	-
6月30日(水)	清田区役所⇒中止	-

7月		
日程	場所	相談件数
7月4日(水)	西区民センター⇒中止	-
7月11日(土)	中央区民センター⇒中止	-
7月14日(水)	北区民センター⇒中止	-
7月28日(水)	厚別区民センター⇒中止	-

8月		
日程	場所	相談件数
8月11日(水)	東区民センター⇒中止	-
8月18日(水)	白石区民センター⇒中止	-
8月21日(土)	手稲区民センター⇒中止	-
8月29日(日)	南区民センター⇒中止	-

9月		
日程	場所	相談件数
9月8日(水)	豊平区民センター⇒中止	-
9月11日(土)	清田区民センター⇒中止	-
9月26日(日)	北区民センター⇒中止	-
9月29日(水)	八軒地区センター⇒中止	-

10月		
日程	場所	相談件数
10月13日(水)	中央区民センター	1件
10月16日(土)	東区民センター	2件
10月20日(日)	手稲区民センター	3件
10月31日(日)	厚別区民センター	0件

11月		
日程	場所	相談件数
11月7日(日)	白石区民センター	1件
11月17日(水)	豊平区民センター	1件
11月18日(木)	さっぽろ若者サポートステーションと合同説明会	1件

12月		
日程	場所	相談件数
12月8日(水)	清田区役所	1件
12月12日(日)	西区民センター	2件
12月18日(土)	北区民センター	3件

1月		
日程	場所	相談件数
1月15日(土)	中央区民センター	2件
1月30日(日)	手稲区民センター	4件

2月		
日程	場所	相談件数
2月9日(水)	東区民センター	2件
2月16日(水)	厚別南地区区民センター	1件
2月19日(土)	豊平区民センター	1件
2月27日(日)	清田区民センター	1件

※2月1日(火)手稲区民センターにて追加実施:1件

3月		
日程	場所	相談件数
3月9日(水)	南区民センター	2件
3月12日(土)	北区民センター	3件
3月23日(水)	西区民センター	2件
3月30日(水)	白石区民センター	0件

### ○居場所「よりどころ」（親の会・当事者会）への専門職の派遣

NPO 法人レター・ポスト・フレンド相談ネットワークが実施している居場所「よりどころ」に「親の会」へ18回、「当事者の会」へ19回、相談員を派遣した。また、「親の会」では月1回、「学習会」として、「親の接し方や声掛け、病気や障害について等」、当センターから参加者に向けて伝えた。よりどころから新規相談に繋がったケースや、以前相談歴があり、よりどころがきっかけで再相談に至ったケース、当センターの相談者が「親の会・当事者会」に繋がるケースもあり、社会資源の1つになっている。

### 3 ネットワーク構築状況

#### ○ひきこもり関連会議参加状況

月	日	実施内容	備考
7	16	札幌子ども・若者支援地域協議会 第1回実務者会議	オンライン
11	19	札幌子ども・若者支援地域協議会 第2回実務者会議	オンライン
12	8	北海道地域若者サポートステーション連絡会議	書面開催
12	10	令和3年度ひきこもり地域支援センター全国連絡協議会 総会および研修会	1名参加 ※オンライン
2	3	札幌子ども・若者支援地域協議会 第3回実務者会議	オンライン
3	-	札幌子ども・若者支援地域協議会 代表者会議 第4回実務者会議	書面開催

#### ○講師派遣状況等

月	日	実施内容	備考
6	5	ひきこもりの暮らしを支えるライフライン 主催：NPO 法人レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク	1名派遣
7	10	令和3年度釧路保健所精神保健講演会（北海道釧路総合振興局）	1名派遣
12	20	令和3年度精神保健医療業務に係る市町村説明・研修会 主催：北海道保健福祉部福祉局障がい者保健福祉課	1名派遣 (オンライン開催)
12	20	石狩市子ども・若者支援地域協議会代表者会議	1名派遣

#### ○外部研修参加状況等

月	日	実施内容	備考
7	3 4	第57回社会福祉セミナー「ひきこもり」と社会福祉 ※オンライン研修	2名参加
8	21	ひきこもり親子公開対論 主催：NPO 法人レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク	1名参加 ※当センター後援
11	25 26	ひきこもり対策研修（厚生労働省こころの健康づくり対策事業） ※オンライン研修	2名参加
11	27 28	第15回KHJ全国大会 主催：KHJ全国ひきこもり家族会連合会	1名参加
1 2	31 1	ひきこもり対策研修（厚生労働省こころの健康づくり対策事業） ※オンライン研修	2名参加
2	24	令和3年度北海道困難を有する子ども・若者の支援連携研修会 ※オンライン研修	1名参加

c 普及啓発、事業概要説明

問い合わせ、相談先の掲載、インタビュー（報道機関や大学の研究等）やアンケート協力、リーフレット送付インターネットによる発信等により、ひきこもりに関する正しい知識の普及に努めた。

就労困難者支援を行う団体のネットワーク等、各種関係機関との協力を努めた。

③研修会

○ひきこもり支援機関関係職員等研修会

月	日	実施内容	備考
2	21 ～ 28	令和3年度 ひきこもり支援機関関係職員等研修会 「それぞれの個性で続けていくひきこもり相談」 インターネット配信期間：2/21(月)～2/28(月) 参加者居住地内訳：北海道(札幌市以外)106名、札幌市46名	※講師：コーディネーター4名

※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から座学研修ではなく、録画配信による「インターネット配信」研修会とした。申込者にはパスワードを通知し限定公開とし、1週間（24時間いつでも）閲覧できるよう工夫を凝らした。

○ひきこもりサポーター養成研修事業

月	日	実施内容	備考
3	26	ひきこもりサポーター養成研修 「当事者の体験から学ぶ」 オンライン開催 3/26(土) 参加者居住地内訳：北海道(札幌市以外)1名、札幌市5名	※講師：当事者1名 (当センター元相談者)

※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から座学研修ではなく、ZOOMによるオンライン研修会とした。

※新型コロナウイルスの影響から、協議会は中止とした。

### 3 会 計 部 門

#### 貸 借 対 照 表

令和 4年 3月31日現在

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
<b>I 資産の部</b>			
1 流動資産			
現金預金	33,052,151	32,928,787	123,364
普通預金	33,052,151	32,928,787	123,364
未収金	15,307,462	17,849,546	△2,542,084
前払金	70,000	70,000	
<b>流動資産合計</b>	<b>48,429,613</b>	<b>50,848,333</b>	<b>△2,418,720</b>
2 固定資産			
(1) 基本財産			
投資有価証券	49,982,970	49,982,970	
諸貯金	17,030	17,030	
<b>基本財産合計</b>	<b>50,000,000</b>	<b>50,000,000</b>	
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	56,089,604	52,138,915	3,950,689
減価償却引当資産	41,417,387	39,471,608	1,945,779
土地	347,016,000	347,016,000	
建物	497,434,011	497,434,011	
什器備品	24,030,809	24,030,809	
減価償却累計額 △	423,767,769	414,090,051	9,677,718
<b>特定資産合計</b>	<b>542,220,042</b>	<b>546,001,292</b>	<b>△3,781,250</b>
(3) その他固定資産			
構築物	7,414,959	7,414,959	
車両運搬具	299,000	2,207,755	△1,908,755
減価償却累計額 △	7,218,429	9,298,220	△2,079,791
電話加入権	352,024	352,024	
預託金	24,000	45,460	△21,460
<b>その他固定資産合計</b>	<b>871,554</b>	<b>721,978</b>	<b>149,576</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>593,091,596</b>	<b>596,723,270</b>	<b>△3,631,674</b>
<b>資産の部合計</b>	<b>641,521,209</b>	<b>647,571,603</b>	<b>△6,050,394</b>
<b>II 負債の部</b>			
1 流動負債			
未払金	3,788,280	6,516,657	△2,728,377
未払消費税等	744,100	1,001,200	△257,100
預り金	721,760	1,040,767	△319,007
<b>流動負債合計</b>	<b>5,254,140</b>	<b>8,558,624</b>	<b>△3,304,484</b>
2 固定負債			
長期借入金	25,000,000	25,000,000	
退職給付引当金	56,089,604	52,138,915	3,950,689
<b>固定負債合計</b>	<b>81,089,604</b>	<b>77,138,915</b>	<b>3,950,689</b>
<b>負債の部合計</b>	<b>86,343,744</b>	<b>85,697,539</b>	<b>646,205</b>
<b>III 正味財産の部</b>			
1 指定正味財産			
地方公共団体補助金	113,606,339	122,243,512	△8,637,173
民間助成金		5,205	△5,205
寄付金	30,000,000	30,000,000	
受贈土地	347,016,000	347,016,000	
<b>指定正味財産合計</b>	<b>490,622,339</b>	<b>499,264,717</b>	<b>△8,642,378</b>
(うち基本財産への充当額)	( 50,000,000)	( 50,000,000)	( )
(うち特定資産への充当額)	( 440,622,338)	( 449,259,511)	( △8,637,173)
2 一般正味財産			
(うち特定資産への充当額)	( 45,508,100)	( 44,602,866)	( 905,234)

## 貸借対照表

令和 4年 3月31日現在

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
正味財産の部合計	555,177,465	561,874,064	△6,696,599
負債及び正味財産合計	641,521,209	647,571,603	△6,050,394

# 正味財産増減計算書

令和 3年 4月 1日から令和 4年 3月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	239,276	239,276	
基本財産受取利息	239,276	239,276	
特定資産運用益	655	616	39
特定資産受取利息	655	616	39
事業収益	99,466,653	97,965,817	1,500,836
診療収益	63,303,380	59,249,373	4,054,007
就労支援事業収益	4,972,081	6,071,760	△1,099,679
訓練等給付費収益	29,657,400	28,738,834	918,566
就労支援自己負担金収益	389,600	368,200	21,400
計画相談支援給付費収益	604,227	565,554	38,673
その他の事業収益	539,965	2,972,096	△2,432,131
受取補助金等	36,711,946	36,770,843	△58,897
受取補助金等振替額	8,642,378	8,668,389	△26,011
北海道委託金	13,473,668	13,506,554	△32,886
札幌市委託金	14,595,900	14,595,900	
受取寄付金	1,338,900	347,400	991,500
受取寄付金	1,338,900	347,400	991,500
雑収益	324,378	353,934	△29,556
受取利息	844	759	85
雑収益	323,534	353,175	△29,641
経常収益計	138,081,808	135,677,886	2,403,922
(2) 経常費用			
事業費	120,743,146	129,035,254	△8,292,108
給料手当	60,786,940	63,470,168	△2,683,228
臨時雇賃金	9,746,802	11,903,820	△2,157,018
退職給付費用	3,595,127	4,111,270	△516,143
福利厚生費	10,524,368	11,306,734	△782,366
旅費交通費	275,030	538,580	△263,550
通信運搬費	550,274	675,259	△124,985
減価償却費	9,105,259	9,412,611	△307,352
消耗什器備品費		1,289,236	△1,289,236
消耗品費	2,051,741	3,207,384	△1,155,643
修繕費	438,295	47,294	391,001
印刷製本費	130,680	164,340	△33,660
燃料費	1,461,774	1,128,754	333,020
光熱水料費	2,302,237	2,233,558	68,679
賃借料	1,307,090	1,520,883	△213,793
保険料	548,347	485,815	62,532
諸謝金	2,168,611	2,017,000	151,611
租税公課	1,609,433	1,665,012	△55,579
支払負担金	434,414	341,104	93,310
委託費	5,631,944	5,513,558	118,386
医薬材料費	1,861	10,339	△8,478
デイケア材料費	1,025,086	898,149	126,937
利用者工賃	5,982,958	6,260,645	△277,687
支払手数料	1,027,375	813,151	214,224
支払利息	37,500	20,590	16,910
管理費	15,398,882	16,569,461	△1,170,579

# 正味財産増減計算書

令和 3年 4月 1日から令和 4年 3月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
役員報酬	7,400	33,300	△25,900
給料手当	10,563,502	11,528,908	△965,406
臨時雇賃金	22,320	42,992	△20,672
退職給付費用	355,562	406,609	△51,047
福利厚生費	1,867,076	2,059,862	△192,786
旅費交通費	1,800	3,700	△1,900
通信運搬費	64,723	74,414	△9,691
減価償却費	700,421	638,130	62,291
消耗品費	119,365	132,078	△12,713
修繕費	31,475	938	30,537
燃料費	101,099	77,712	23,387
光熱水料費	144,251	140,302	3,949
賃借料	57,147	68,738	△11,591
保険料	55,023	53,705	1,318
租税公課	18,767	17,038	1,729
支払負担金	60,186	55,146	5,040
雑費	9,101	46,994	△37,893
支払手数料	118,064	96,949	21,115
委託費	1,101,600	1,091,946	9,654
経常費用計	136,142,028	145,604,715	△9,462,687
評価損益等調整前当期経常増減額	1,939,780	△9,926,829	11,866,609
評価損益等計			
当期経常増減額	1,939,780	△9,926,829	11,866,609
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
固定資産売却益	5,999		5,999
車両運搬具売却益	5,999		5,999
経常外収益計	5,999		5,999
(2) 経常外費用			
経常外費用計			
当期経常外増減額	5,999		5,999
税引前当期一般正味財産増減額	1,945,779	△9,926,829	11,872,608
当期一般正味財産増減額	1,945,779	△9,926,829	11,872,608
一般正味財産期首残高	62,609,347	72,536,176	△9,926,829
一般正味財産期末残高	64,555,126	62,609,347	1,945,779
II 指定正味財産増減の部			
一般正味財産への振替額	8,642,378	8,668,389	△26,011
一般正味財産への振替額	8,642,378	8,668,389	△26,011
当期指定正味財産増減額	△8,642,378	△8,668,389	26,011
指定正味財産期首残高	499,264,717	507,933,106	△8,668,389
指定正味財産期末残高	490,622,339	499,264,717	△8,642,378
III 正味財産期末残高	555,177,465	561,874,064	△6,696,599

正味財産増減計算書内訳表  
令和 3年 4月 1日から令和 4年 3月31日まで

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	内部取引消去	合 計
<b>I 一般正味財産増減の部</b>				
<b>1. 経常増減の部</b>				
<b>(1) 経常収益</b>				
<b>基本財産運用益</b>		239,276		239,276
基本財産受取利息		239,276		239,276
<b>特定資産運用益</b>	596	59		655
特定資産受取利息	596	59		655
<b>事業収益</b>	86,094,389	14,869,393	△1,497,129	99,466,653
診療収益	48,433,987	14,869,393		63,303,380
就労支援事業収益	6,469,210		△1,497,129	4,972,081
訓練等給付費収益	29,657,400			29,657,400
就労支援自己負担金収益	389,600			389,600
計画相談支援給付費収益	604,227			604,227
その他の事業収益	539,965			539,965
<b>受取補助金等</b>	36,133,256	578,690		36,711,946
受取補助金等振替額	8,063,688	578,690		8,642,378
北海道委託金	13,473,668			13,473,668
札幌市委託金	14,595,900			14,595,900
<b>受取寄付金</b>	1,338,900			1,338,900
受取寄付金	1,338,900			1,338,900
<b>雑収益</b>	314,378	10,000		324,378
受取利息	844			844
雑収益	313,534	10,000		323,534
<b>経常収益計</b>	123,881,519	15,697,418	△1,497,129	138,081,808
<b>(2) 経常費用</b>				
<b>事業費</b>	122,240,275		△1,497,129	120,743,146
給料手当	60,786,940			60,786,940
臨時雇賃金	9,746,802			9,746,802
退職給付費用	3,595,127			3,595,127
福利厚生費	10,524,368			10,524,368
旅費交通費	275,030			275,030
通信運搬費	550,274			550,274
減価償却費	9,105,259			9,105,259
消耗品費	2,051,741			2,051,741
修繕費	438,295			438,295
印刷製本費	130,680			130,680
燃料費	1,461,774			1,461,774
光熱水料費	2,302,237			2,302,237
賃借料	1,307,090			1,307,090
保険料	548,347			548,347
諸謝金	2,168,611			2,168,611
租税公課	1,609,433			1,609,433
支払負担金	434,414			434,414
委託費	5,631,944			5,631,944
医薬材料費	1,861			1,861
デイケア材料費	1,025,086			1,025,086
利用者工賃	5,982,958			5,982,958
支払手数料	2,524,504		△1,497,129	1,027,375
支払利息	37,500			37,500
<b>管理費</b>		15,398,882		15,398,882
役員報酬		7,400		7,400
給料手当		10,563,502		10,563,502
臨時雇賃金		22,320		22,320
退職給付費用		355,562		355,562
福利厚生費		1,867,076		1,867,076
旅費交通費		1,800		1,800
通信運搬費		64,723		64,723
減価償却費		700,421		700,421
消耗品費		119,365		119,365
修繕費		31,475		31,475
燃料費		101,099		101,099
光熱水料費		144,251		144,251

## 正味財産増減計算書内訳表

令和 3年 4月 1日から令和 4年 3月31日まで

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	内部取引消去	合 計
賃借料		57,147		57,147
保険料		55,023		55,023
租税公課		18,767		18,767
支払負担金		60,186		60,186
雑費		9,101		9,101
支払手数料		118,064		118,064
委託費		1,101,600		1,101,600
経常費用計	122,240,275	15,398,882	△1,497,129	136,142,028
評価損益等調整前当期経常増減額	1,641,244	298,536		1,939,780
評価損益等計				
当期経常増減額	1,641,244	298,536		1,939,780
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
固定資産売却益	5,999			5,999
車両運搬具売却益	5,999			5,999
経常外収益計	5,999			5,999
(2) 経常外費用				
経常外費用計				
当期経常外増減額	5,999			5,999
他会計振替前当期一般正味財産増減額	1,647,243	298,536		1,945,779
税引前当期一般正味財産増減額	1,647,243	298,536		1,945,779
当期一般正味財産増減額	1,647,243	298,536		1,945,779
一般正味財産期首残高	55,778,595	6,830,752		62,609,347
一般正味財産期末残高	57,425,838	7,129,288		64,555,126
II 指定正味財産増減の部				
一般正味財産への振替額	8,063,688	578,690		8,642,378
一般正味財産への振替額	8,063,688	578,690		8,642,378
当期指定正味財産増減額	△8,063,688	△578,690		△8,642,378
指定正味財産期首残高	492,414,394	6,850,323		499,264,717
指定正味財産期末残高	484,350,706	6,271,633		490,622,339
III 正味財産期末残高	541,776,544	13,400,921		555,177,465

# 財 産 目 録

令和 4年 3月31日 現在

(単位：円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)			
現金預金 普通預金 未収金 前払金	北洋銀行白石中央支店他5口座 診療報酬、診療報酬自己負担分他 前払家賃	運転資金として	33,052,151 33,052,151 15,307,462 70,000
<b>流動資産合計</b>			<b>48,429,613</b>
(固定資産)			
基本財産			
投資有価証券	札幌市平成27年度第9回公募公債他	管理活動財産として運用益を管理費の財源として使用している。	49,982,970
諸貯金	北洋銀行白石中央支店	管理活動財産として運用益を管理費の財源として使用している。	17,030
退職給付引当資産	定期預金・普通預金 北洋銀行白石中央支店他2口座	右記金額のうち、51,041,539円は公益目的事業会計の引当資産であり、退職給付引当資産として管理されている預金。	56,089,604
特定資産			
減価償却引当資産	定期預金・普通預金 北洋銀行白石中央支店他2口座	右記金額のうち、5,048,065円は法人会計の引当資産であり、退職給付引当資産として管理されている預金。 右記金額のうち、38,642,421円は公益目的事業会計の引当資産であり、資産取得資金として管理されている預金。	41,417,387
土地	4,819.66㎡ 札幌市白石区平和通17丁目北1番13号	右記金額のうち、2,774,966円は法人会計の引当資産であり、資産取得資金として管理されている預金。 公益目的保有財産であり、公益目的事業の施設に使用している。	347,016,000
建物	1,793.7㎡ 札幌市白石区平和通17丁目北1番13号	右記金額のうち、464,243,115円は公益目的保有財産であり、公益目的事業の施設に使用している。 法人会計の施設に使用している。	497,434,011
什器備品	応接セット他65点	右記金額のうち、23,920,264円は公益目的保有財産であり、公益目的事業において使用している。 右記金額のうち、110,545円は管理活動財産であり、法人会計において使用している。	24,030,809
減価償却累計額 △			423,767,769

# 財 産 目 録

令和 4年 3月31日 現在

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
その他固定資産	構築物	館名板他3点	公益目的保有財産であり、公益目的事業の設備として使用している。 管理活動財産であり、法人会計において使用している。 公益目的保有財産であり、公益目的事業において使用している。 公益目的保有財産であり、公益目的事業において使用し事業所敷金である。	7,414,959
	車両運搬具	トヨタウィッシュ1台		299,000
	減価償却累計額 △ 電話加入権	日本電信電話株		7,218,429
	預託金	事業所敷金		352,024
<b>固定資産合計</b>				<b>593,091,596</b>
<b>資産合計</b>				<b>641,521,209</b>
(流動負債)	未払金	職員及び商業者等に対する未払額	公益目的事業会計及び法人会計での給与手当及び経常経費の未払分である。	3,788,280
	未払消費税等 預り金	令和3年度消費税 社会保険料職員自己負担分他		744,100 721,760
<b>流動負債合計</b>				<b>5,254,140</b>
(固定負債)	長期借入金	独立行政法人福祉医療機構	職員に対する退職金の支払いに備えたものである。	25,000,000
	退職給付引当金	職員に対するもの		56,089,604
<b>固定負債合計</b>				<b>81,089,604</b>
<b>負債合計</b>				<b>86,343,744</b>
<b>正味財産</b>				<b>555,177,465</b>

(単位：円)

## 財務諸表に対する注記

### 1. 重要な会計方針

#### (1) 有価証券の評価基準及び評価方法

個別原価法

#### (2) 固定資産の減価償却の方法

定額法

#### (3) 引当金の計上基準

従業員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務に基づき、当期末において発生していると認められる額を計上している。

#### (4) 消費税等の会計処理

税込方式

### 2. 会計方針の変更

該当なし

### 3. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
投資有価証券	49,982,970			49,982,970
諸貯金	17,030			17,030
小 計	50,000,000	0	0	50,000,000
特定資産				
土地	347,016,000			347,016,000
建物	106,374,410		9,369,454	97,004,956
什器備品	1,000,359		308,264	692,095
退職給付引当資産	52,138,915	3,950,689		56,089,604
減価償却引当資産	39,471,608	1,945,779		41,417,387
小 計	546,001,292	5,896,468	9,677,718	542,220,042
合 計	596,001,292	5,896,468	9,677,718	592,220,042

### 4. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味 財産からの充当 額)	(うち一般正味 財産からの充当 額)	(うち負債に対 応する額)
基本財産				
投資有価証券	49,982,970	49,982,970		
諸貯金	17,030	17,030		
小 計	50,000,000	50,000,000	0	0
特定資産				
土地	347,016,000	347,016,000		
建物	97,004,956	93,606,315	3,398,641	
什器備品	692,095	23	692,072	
退職給付引当資産	56,089,604			56,089,604
減価償却引当資産	41,417,387		41,417,387	
小 計	542,220,042	440,622,338	45,508,100	56,089,604
合 計	592,220,042	490,622,338	45,508,100	56,089,604

### 5. 担保に供している資産

該当なし

6. 債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高（貸倒引当金を直接控除した残額のみを記載した場合）  
債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高は次のとおりである。

(単位：円)

科 目	債権金額	貸倒引当金の当期末残高	債権の当期末残高
未収金	15,307,462		15,307,462
合 計	15,307,462	0	15,307,462

7. 保証債務（債務保証を主たる目的事業としている場合を除く。）等の偶発債務  
該当なし

8. 満期保有目的の債権の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益  
満期保有目的の債権並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	帳簿価額	時価	評価損益
北海道平成25年度第15回公募公債	30,022,955	30,369,000	346,045
札幌市平成27年度第9回公募公債	19,960,015	20,094,000	133,985
合 計	49,982,970	50,463,000	480,030

9. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高  
補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位：円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
委託金						
地域移行支援事業	北海道		7,229,668	7,229,668	0	一般正味財産
高次脳機能事業	〃		1,597,000	1,597,000	0	一般正味財産
ひきこもり事業	〃		4,647,000	4,647,000	0	一般正味財産
ひきこもり事業	札幌市		14,595,900	14,595,900	0	一般正味財産
民間助成金					0	
赤い羽根助成	札幌市共募	5,205		5,205	0	指定正味財産
合 計		5,205	28,069,568	28,074,773	0	

10. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳  
指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

内 容	金額
経常収益への振替額	
減価償却費計上による振替額	8,642,378
合 計	8,642,378

11. 関連当事者との取引の内容  
該当なし

12. 重要な後発事象  
該当なし

13. その他  
該当なし

附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

(単位：円)

区分	資産の種類	期首帳簿価額	当期増加額	当期減少額	期末帳簿価額
基本財産	投資有価証券	49,982,970			49,982,970
	諸貯金	17,030			17,030
	基本財産計	50,000,000	0	0	50,000,000
特定資産	土地	347,016,000			347,016,000
	建物	106,374,410		9,369,454	97,004,956
	什器備品	1,000,359		308,264	692,095
	退職給付引当資産	52,138,915	3,950,689		56,089,604
	減価償却引当資産	39,471,608	1,945,779		41,417,387
	特定資産計	546,001,292	5,896,468	9,677,718	542,220,042

2. 引当金の明細

(単位：円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	52,138,915	3,950,689			56,089,604

# 収 支 計 算 書

令和 3年 4月 1日から令和 4年 3月31日まで

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
<b>I 事業活動収支の部</b>			
<b>1. 事業活動収入</b>			
(1) 基本財産運用収入	240,000	239,276	△724
基本財産利息収入	240,000	239,276	△724
(2) 特定資産運用収入	1,000	655	△345
特定資産利息収入	1,000	655	△345
(5) 事業収入	100,400,000	99,466,653	△933,347
診療収入	64,679,000	63,303,380	△1,375,620
研修事業収入	256,000		△256,000
就労支援事業収入	6,083,000	4,972,081	△1,110,919
訓練等給付費収入	28,022,000	29,657,400	1,635,400
就労支援自己負担金収入	562,000	389,600	△172,400
計画相談支援給付費収入	531,000	604,227	73,227
地域相談支援給付収入	67,000		△67,000
その他の事業収入	200,000	539,965	339,965
(6) 補助金等収入	28,102,000	28,069,568	△32,432
北海道委託金収入	13,506,000	13,473,668	△32,332
札幌市委託金収入	14,596,000	14,595,900	△100
(8) 寄付金収入	350,000	1,338,900	988,900
寄付金収入	350,000	1,338,900	988,900
(9) 雑収入	353,000	324,378	△28,622
受取利息収入	1,000	844	△156
雑収入	352,000	323,534	△28,466
<b>事業活動収入計</b>	<b>129,446,000</b>	<b>129,439,430</b>	<b>△6,570</b>
<b>2. 事業活動支出</b>			
(1) 事業費支出	110,434,000	108,042,760	2,391,240
給料手当支出	60,797,000	60,786,940	10,060
臨時雇賃金支出	9,753,000	9,746,802	6,198
福利厚生費支出	10,525,000	10,524,368	632
旅費交通費支出	276,000	275,030	970
通信運搬費支出	734,000	550,274	183,726
消耗品費支出	2,052,000	2,051,741	259
修繕費支出	439,000	438,295	705
印刷製本費支出	131,000	130,680	320
燃料費支出	1,462,000	1,461,774	226
光熱水料費支出	2,344,000	2,302,237	41,763
賃借料支出	1,674,000	1,307,090	366,910
保険料支出	549,000	548,347	653
諸謝金支出	2,169,000	2,168,611	389
租税公課支出	1,684,000	1,609,433	74,567
負担金支出	571,000	434,414	136,586
委託費支出	5,632,000	5,631,944	56
雑支出	50,000		50,000
医薬材料費支出	20,000	1,861	18,139
デイケア材料費支出	1,026,000	1,025,086	914
利用者工賃支出	5,983,000	5,982,958	42
手数料支出	2,525,000	1,027,375	1,497,625
支払利息	38,000	37,500	500
(2) 管理費支出	14,800,000	14,333,798	466,202
役員報酬支出	67,000	7,400	59,600
給料手当支出	10,564,000	10,563,502	498

## 収 支 計 算 書

令和 3年 4月 1日から令和 4年 3月31日まで

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
臨時雇賃金	66,000	22,320	43,680
福利厚生費支出	1,961,000	1,867,076	93,924
会議費支出	40,000		40,000
旅費交通費支出	35,000	1,800	33,200
通信運搬費支出	114,000	64,723	49,277
消耗品費支出	120,000	119,365	635
修繕費支出	32,000	31,475	525
燃料費支出	109,000	101,099	7,901
光熱水料費支出	176,000	144,251	31,749
賃借料支出	92,000	57,147	34,853
火災保険料支出	57,000	55,023	1,977
租税公課支出	21,000	18,767	2,233
負担金支出	87,000	60,186	26,814
支払利息支出	38,000		38,000
手数料支出	119,000	118,064	936
委託費支出	1,102,000	1,101,600	400
事業活動支出計	125,234,000	122,376,558	2,857,442
事業活動収支差額	4,212,000	7,062,872	2,850,872
II 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
(3) 固定資産売却収入		6,000	6,000
車両運搬具売却収入		6,000	6,000
(5) 敷金・保証金等戻り収入		12,360	12,360
預託金戻り収入		12,360	12,360
投資活動収入計		18,360	18,360
2. 投資活動支出			
(2) 特定資産取得支出	5,899,000	5,896,468	2,532
退職給付引当資産取得支出	3,952,000	3,950,689	1,311
減価償却引当資産取得支出	1,947,000	1,945,779	1,221
(3) 固定資産取得支出	299,000	299,000	
車両運搬具購入支出	299,000	299,000	
投資活動支出計	6,198,000	6,195,468	2,532
投資活動収支差額	△6,198,000	△6,177,108	20,892
III 財務活動収支の部			
1. 財務活動収入			
財務活動収入計			
2. 財務活動支出			
財務活動支出計			
財務活動収支差額			
IV 予備費支出			
当期収支差額	△1,986,000	885,764	2,871,764
前期繰越収支差額	36,965,000	42,289,709	5,324,709
次期繰越収支差額	34,979,000	43,175,473	8,196,473

## 収支計算書に対する注記

### 1 資金の範囲

資金の範囲には、現金預金、未収金、前払金、未払金、未払消費税等、預り金を含めている。なお、前期末及び当期末残高は、下記2に記載するとおりである。

### 2 次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳

科 目	前 期 末 残 高	当 期 末 残 高
現 金 預 金	32,928,787	33,052,151
未 収 金	17,849,546	15,307,462
前 払 金	70,000	70,000
合 計	50,848,333	48,429,613
未 払 金	6,516,657	3,788,280
未 払 消 費 税 等	1,001,200	744,100
預 り 金	1,040,767	721,760
合 計	8,558,624	5,254,140
次期繰越収支差額	42,289,709	43,175,473

## 4 監査報告

# 監査報告書

公益財団法人 北海道精神保健推進協会

理事長 阿部 幸弘 様

私たち監事は、令和3年4月1日から令和4年3月31日までの令和3年度における理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

### 1. 監査の方法及びその内容

私たち監事は、理事及び使用人と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計帳簿及び関連する書類の調査を行い、当該年度に係る計算書類等（貸借対照表、正味財産増減計算書及びこれらの附属明細書並びに財産目録）について検討いたしました。

### 2. 監査の結果

#### (1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、当法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。

#### (2) 計算書類等の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

以上

令和 4 年 5 月 19 日

公益財団法人 北海道精神保健推進協会

監事 松下 貞則



監事

日 塚 尚子



# 資 料 編

## 1 理事・監事・顧問・参与・評議員名簿 (令和4年3月31日現在)

役 職	氏 名	所 属
理 事 長	阿 部 幸 弘	こころのリカバリー総合支援センター所長
副理事長	池 田 輝 明	北海道精神病院協会会長 桑園病院院長
常務理事	蓑 島 信 彦	北海道精神保健推進協会事務局長
理 事	生 駒 一 憲	北海道大学病院リハビリテーション科教授
理 事	石 川 博 基	北海道精神神経科診療所協会会長 いしかわ心療・神経クリニック院長
理 事	小 出 英 子	NPO法人オーク会副理事長
理 事	廣 島 孝	北海道保健福祉部技監
理 事	大 谷 聡 美	札幌市保健福祉局 障がい保健福祉部長
理 事	中 村 末太郎	北海道精神障害者家族連合会会長
理 事	松 原 良 次	札幌精神科医会会長 札幌花園病院院長
監 事	松 下 克 則	北洋銀行常勤監査役
監 事	日 浅 尚 子	北海道新聞社常勤監査役
評 議 員	石 山 貴 博	NPO法人精神障害者回復者クラブすみれ会副理事長
評 議 員	大 澤 恵留美	北海道大学病院リハビリテーション部技師長
評 議 員	岡 崎 大 介	北海道精神保健福祉センター所長
評 議 員	鎌 田 隼 輔	札幌市保健福祉局精神保健福祉センター所長
評 議 員	菅 原 悦 子	NPO法人札幌市精神障害者家族連合会会長
評 議 員	善養寺 圭 子	北海道家庭生活総合カウンセリングセンター相談役
評 議 員	池 田 桂 子	こころのリカバリー総合支援センター「リラの会」会長
評 議 員	矢 部 滋 也	一般社団法人北海道ピアサポート協会代表理事
評 議 員	田 中 美奈子	こころのリカバリー総合支援センター医療参事
評 議 員	土 肥 一 一	こころのリカバリー総合支援センターOB会会長
評 議 員	西 村 正 樹	認定NPO法人DPI (障害者インターナショナル) 日本会議 副議長

## 2 財団法人設立から、今日までの経過等

昭和62年	7月 7日	財団法人設立準備委員会発足 (第1回会議)
〃	8月10日	財団法人北海道精神保健推進協会 (仮称) 設立準備委員会 (第2回会議)
〃	8月11日	財団法人北海道精神保健推進協会 (仮称) 設立発起人会 (設立総会)
昭和62年	8月20日	民法第34条の規定に基づく財団法人北海道精神保健推進協会設立許可申請
〃	9月 1日	同上許可 (北海道知事)
〃	9月 1日	財団法人北海道精神保健推進協会事務局設置

〃	9月10日	法人登記
平成 元年	2月16日	「札幌デイ・ケアセンター」開設
〃 21年	4月 1日	「こころのリカバリー総合支援センター」に改称
〃 24年	4月 1日	財団法人から公益財団法人へ移行
〃 26年	6月16日	就労継続支援B型事業所「こころカ・プロダクション」開設
〃 28年	6月16日	就労移行支援事業所「こコスト」開設
〃 28年	6月16日	相談支援事業所「ココクル」開設
〃 30年	4月 1日	就労定着支援事業所開設（こころカ・プロダクション内）
令和 2年	4月 1日	就労移行支援事業所「こコスト」の名称を多機能型事業所「こころカ・プロダクション」に統一

### 3 施設の概要

#### (1) 「こころのリカバリー総合支援センター」

所在地	札幌市白石区平和通17丁目北1番13号		
建物構造	鉄筋コンクリート1部2階建		
面積	敷地面積	4,819.66 m <sup>2</sup>	
	建築延面積	1,793.7 m <sup>2</sup>	
	・管理訓練棟	1,315.5 m <sup>2</sup>	
	(うち90.7 m <sup>2</sup> を「こコスト」「ココクル」で使用)		
	・体育館	463.20 m <sup>2</sup>	
付属設備	・附属建物	15.00 m <sup>2</sup>	
	テニスコート	1面	

#### (2) 「こころカ・プロダクション」

所在地	札幌市白石区平和通15丁目北13番18号		
建物	民間住宅借上	木造3LDK	90.26 m <sup>2</sup>

### 4 基本財産

基本財産の総額は5,000万円で、すべて関係団体の寄附金及び北海道、札幌市からの出捐金であり、その内訳は次表のとおりである。

(単位：円)

機 関、団 体 名	金 額
北海道精神病院協会	10,000,000
北海道精神障害者家族連合会	10,000,000
札幌市婦人福祉推進協会	10,000,000
北海道	10,000,000
札幌市	10,000,000
計	50,000,000